

予防技術検定模擬テスト

— 解説付 —

NO.101

〔共通〕 問1 対象火気器具等であって火を使用するものの取扱いに係る条例制定基準に関する次の記述のうち、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

- (1) 対象火気器具等は、振動又は衝撃により、容易に可燃物が落下し、又は接触するおそれがなく、かつ、可燃性の蒸気又は可燃性のガスが滞留するおそれのない場所で使用すること。
- (2) 対象火気器具等は、振動又は衝撃により、容易に転倒し、又は落下するおそれのない状態で使用すること。
- (3) 対象火気器具等については、その周囲の整理及び清掃に努める等適切な管理を行うこと。
- (4) 対象火気器具等を、祭礼、縁日、花火大会、展示会その他の多数の者の集合する催しに際して使用する場合にあっては、水バケツの準備をした上で使用すること。

〔消防用設備等〕 問1 無窓階（建築物の地上階のうち、総務省令で定める避難上又は消火活動上有効な開口部を有しない階）に関する次の記述のうち、消防法令上正しいものを1つ選べ。

- (1) 11階以上の階にあっては、直径75cm以上の円が内接することができる開口部の面積の合計が当該階の床面積の30分の1を超える階以外の階を無窓階という。
- (2) 10階以下の階にあっては、直径1m以上の円が内接することができる開口部又はその幅及び高さがそれぞれ75cm以上及び1.2m以上の開口部を2以上有する階以外の階を無窓階という。
- (3) 避難上又は消火活動上有効な開口部は、床面から開口部の下端までの高さが1.2m以内であることが必要である。
- (4) 10階以下の階に設ける避難上又は消火活動上有効な開口部は、道又は道に通ずる幅員3m以上の通路その他の空地に面したものであることが必要である。

〔消防用設備等〕 問2 動力消防ポンプ設備の消防用ホースの長さに関する次の文の（ ）に入る語句の組合せとして、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

当該動力消防ポンプ設備の水源からの水平距離が当該動力消防ポンプ設備の規格放水量が（ ① ）にあっては（ ② ）の範囲内の当該防火対象物の各部分に有効に放水することができる長さとする。

- (1) ①：0.2m³/分未満のもの ②：15m
- (2) ①：0.2m³/分以上0.4m³/分未満のもの ②：25m
- (3) ①：0.2m³/分以上0.5m³/分未満のもの ②：40m
- (4) ①：0.5m³/分以上のもの ②：100m

〔防火査察〕 問1 A県知事から乙種第4類の免状の交付を受けている消防設備士が、B県において、消防法令に違反する行為をしたため、消防法17条の7第2項において準用する消防法第13条の2第5項に基づき消防設備士免状の返納を命ずることを検討している。消防設備士免状の返納に関する記述のうち、適当なものは次のうちどれか。

- (1) A県知事とB県知事が事前に協議し、返納を命ずる主体を決めれば、B県知事は乙種第4類の免状の返納を命ずることができる。
- (2) 乙種第4類の免状の返納を命ずることができる主体は、消防法令に違反する行為をしたB県知事である。
- (3) 乙種第4類の免状の返納を命ずることができる主体は、当該免状を交付したA県知事である。
- (4) 乙種第4類の免状の返納を命ずる場合の行政手続法に基づく事前手続きは、聴聞の実施又は弁明の機会を付与する必要がある。

〔防火査察〕 問2 消防法（以下「法」という。）の違反処理に関する記述のうち、不適當なものは次のうちどれか。

- (1) 違反処理基準とは、警告、命令、認定の取消しへの移行基準及び時期の判断を示したものであり、原則として、違反処理基準の定めるところにより処理する。
- (2) 違反処理を留保する例としては、都市計画等により、違反建物の取り壊し、移転等の工事が具現化している場合で、違反の程度と比較衡量して、留保が妥当な場合がある。
- (3) 違反処理基準に該当する違反に対しては、警告・命令を実施することができるが、違反処理基準に該当しない違反に対しては、警告・命令を実施することはできない。
- (4) 建築基準法違反のみが要件となる防火対象物に対しても、消防署長は法第5条の2第1項に基づく使用停止命令等を発することはできる。

〔危険物〕 問1 移動貯蔵タンクから液体の危険物を容器に詰め替えることができる場合の要件として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 詰替えは、引火点が21℃以上の第4類の危険物に限られること
- (2) 注油速度は、安全な注油に支障がない範囲（灯油の場合60ℓ/分以下）であること
- (3) 容器は、詰め替える危険物を収納することができる運搬容器であること
- (4) 詰替えは、注入ホースの先端部に手動開閉装置を備えた注入ノズルにより行うこと

〔救急〕

問1 答 (3)

解説 消防機関が傷病者の状況を確認するための基準

問2 答 (4)

解説 「救急救命士の資格を有する救急隊員に対して行う就業前教育の実施要領」において、医療機関における病院実習においては160時間以上の実施に努めるものとされている。

問3 答 (2)

解説 「通算5年以上の実務経験」としている。「通算5年の実務経験」には、救急隊長代理（副隊長・予備隊長・隊長代行など）としての経験を含んでよいものとする。

予防技術検定模擬テスト

〔共通〕

問1 答 (4)

解説 (1) 消防法施行令第5条の2第1項第2号。
 (2) 消防法施行令第5条の2第1項第3号。
 (3) 消防法施行令第5条の2第1項第5号。
 (4) 消防法施行令第5条の2第1項第6号。水バケツではなく消火器を準備することが必要である。

〔消防用設備等〕

問1 答 (3)

解説 (1) 消防法施行規則第5条の2第1項参照。直径75cm以上の円ではなく、直径50cm以上の円が内接することができる開口部面積の合計で判断する。
 (2) 消防法施行規則第5条の2第1項参照。設問の開口部を2以上有する階以外の階ではなく、設問の開口部を2以上有する普通階以外の階を無窓階という。
 (3) 消防法施行規則第5条の2第2項第1号参照。
 (4) 消防法施行規則第5条の2第2項第2号。幅員3m以上ではなく、幅員1m以上の通路その他の空地に面したものであることが必要である。

問2 答 (1)

解説 消防法施行令第20条第3項及び同条第4項第2号。(2)から(4)は消防法施行令第20条第4項第2号の規定に適合しているが、そもそも動力消防ポンプ設備の規格放水量は消防法施行令第20条第3項の規定により0.2m³/分以上が求められているため(1)は誤りである。

〔防火査察〕

問1 答 (3)

解説 (1) 免状の返納を命ずることができる主体は、免状を交付した知事であるので、不適当。
 (2) (1)と同じ。
 (3) 消防法令等により適当。
 (4) 免状の返納を命ずる場合の事前手続きは聴聞の実施であるので、不適当。

〔防火査察〕

問2 答 (3)

解説 (1) 違反処理マニュアルにより適当。
 (2) 違反処理マニュアルにより適当。
 (3) 消防法の一部改正に伴う立入検査及び違反処理に関する執務資料（平成14年10月24日、消防安第107号消防庁防火安全室長）により違反処理基準に該当しない違反に対しても要件に該当する場合は警告・命令を行うことができるので、不適当。
 (4) 建築基準法違反のみであっても法第5条の2第1項の要件に該当すると認める場合は、命令することは可能であるので適当。

〔危険物〕

問1 答 (1)

解説 移動貯蔵タンクからの危険物の詰替えは、原則的に禁止されているが、引火点40℃以上の第4類の危険物を、手動開閉装置を備えたノズルにより、一定の注油速度以下で運搬容器に注油する場合に限り行うことができる。

〔参照条文〕

危険物の規制に関する政令第27条第6項第4号ロ
 危険物の規制に関する規則第40条の5の2
 危険物の規制に関する政令等の一部を改正する政令等の施行について（平成元年3月1日付 消防危第14号消防特第34号）第4 4 (3) ア

問2 答 (3)

解説 点検記録は、一定期間保存しなければならないこととされている。なお、点検記録の提出義務が課されているものではない。

〔参照条文〕

消防法第14条の3の2、第44条第5号
 危険物の規制に関する規則第62条の7、第62条の8